

ジャパン・クラウド・コンソーシアム
M2M・ビッグデータWGシンポジウム

M2M・ビッグデータと新たなICT社会

2012年10月26日
日本電気株式会社
奥屋 滋
(M2M・ビッグデータWG 主査)

はじめに

■ 社会の変化と共に、通信と情報の社会も大きく変化しつつあります。

■ 今後、さらにスマートデバイスの発展と通信の高速化により、通信の利用形態が拡大していき、より多くの構造型・非構造型のデータが生まれてきます。

■ それらのデータを、様々な観点・立場から有効かつ効率的に活用していくことが重要になると考えています。

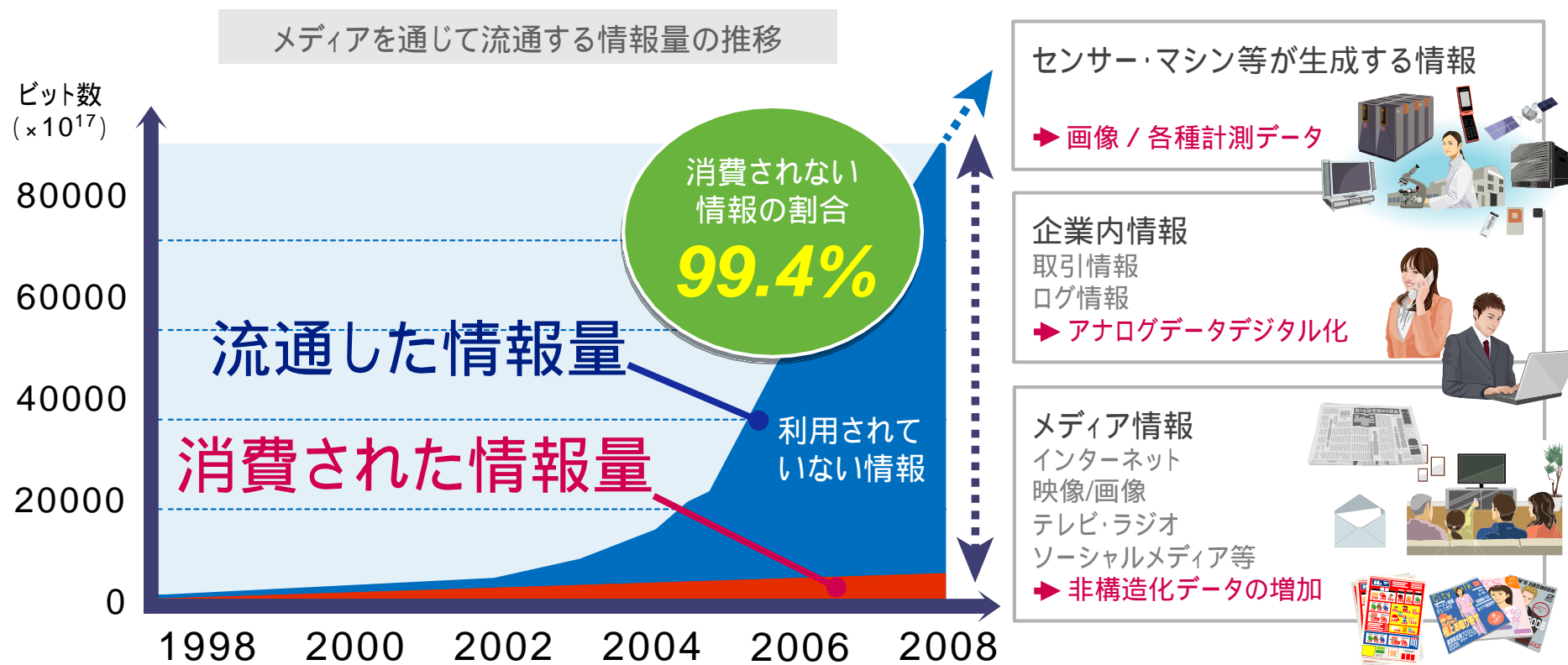
■ スマートデータ、スマートインフォメーションへの取組みを実現するのが、『M2M』と『ビッグデータ』です。

データ爆発社会の到来

社会にプラスの“変革”をもたらす反面、新たな課題も顕在化

2025年、社会の情報量は'06年の200倍に爆発！〔グリーンIT協議会〕

今後は、利用されていない大量の情報を活用し、如何に新たな価値を創造出来るかが課題



【出典】平成22年度情報流通センサス報告書

ビッグデータがもたらす様々な領域での新しい価値

ビッグデータは、様々な領域で活用・利用される

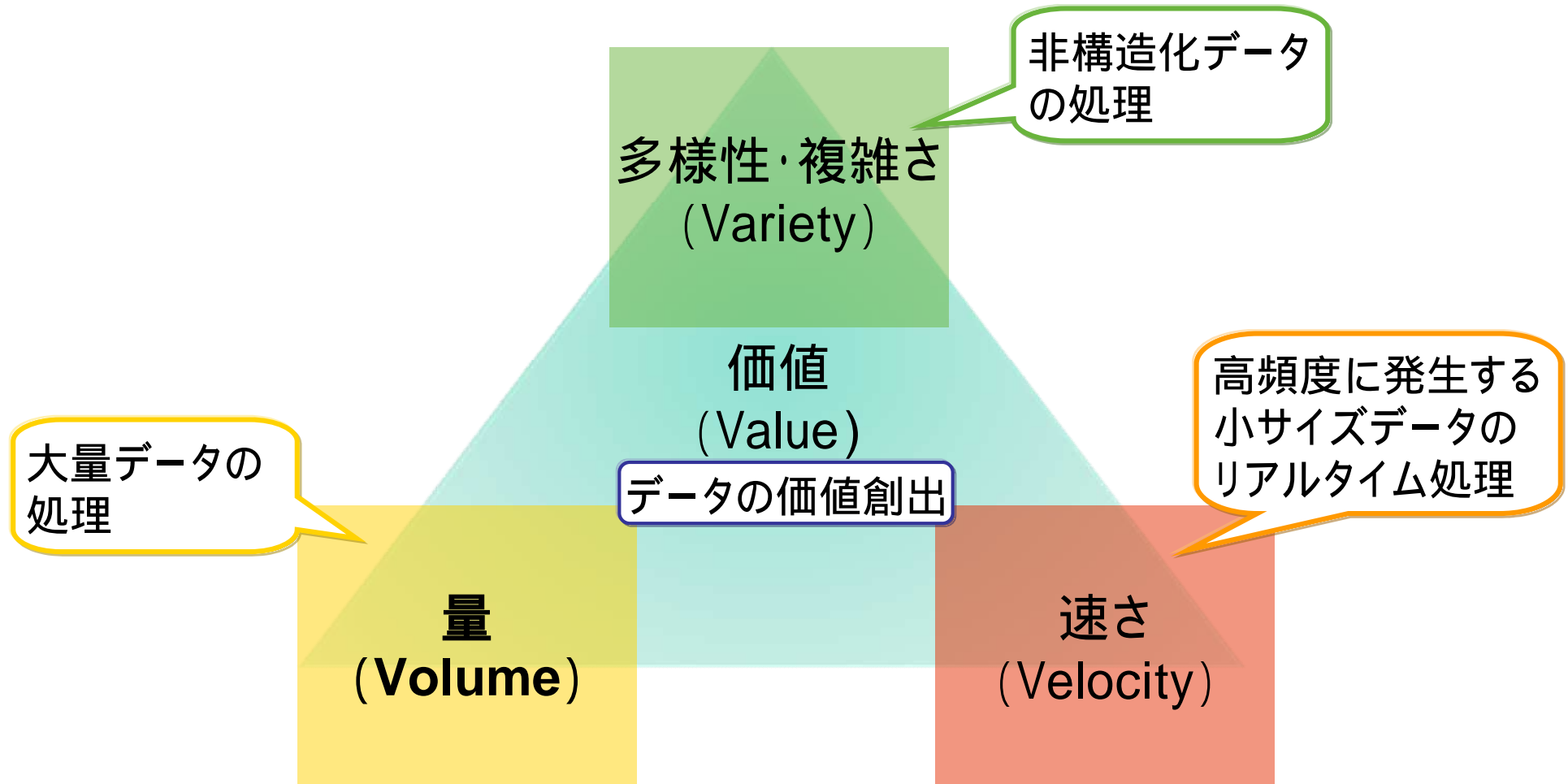


ビッグデータ活用領域

ネット	通信	金融	流通	製造	政府
利便性 ・リコメンド ・インデックス構築 マーケティング ・アクセスログ分析 ・行動ターゲティング ・広告効果測定	マーケティング ・ARPU向上 ・顧客離れ回避 ・収益最適化 顧客サービス ・優良顧客優待 ・ネットワーク最適化	リスク対策 ・不正/異常検知 ・取引監視 ・与信管理 顧客サービス ・CRM ・イベントベースマーケティング	マーケティング ・マーケットバスケット分析 ・キャンペーンマネジメント ・出店計画 顧客サービス ・優良顧客優待 ・ネットとリアル融合	品質 ・トレーサビリティ ・予防保守 SCM ・需要予測 ・在庫最適化	リスク対策 ・不正/異常検知 ・サイバーセキュリティ 政策検討 ・サーベイリサーチ ・スマートシティ

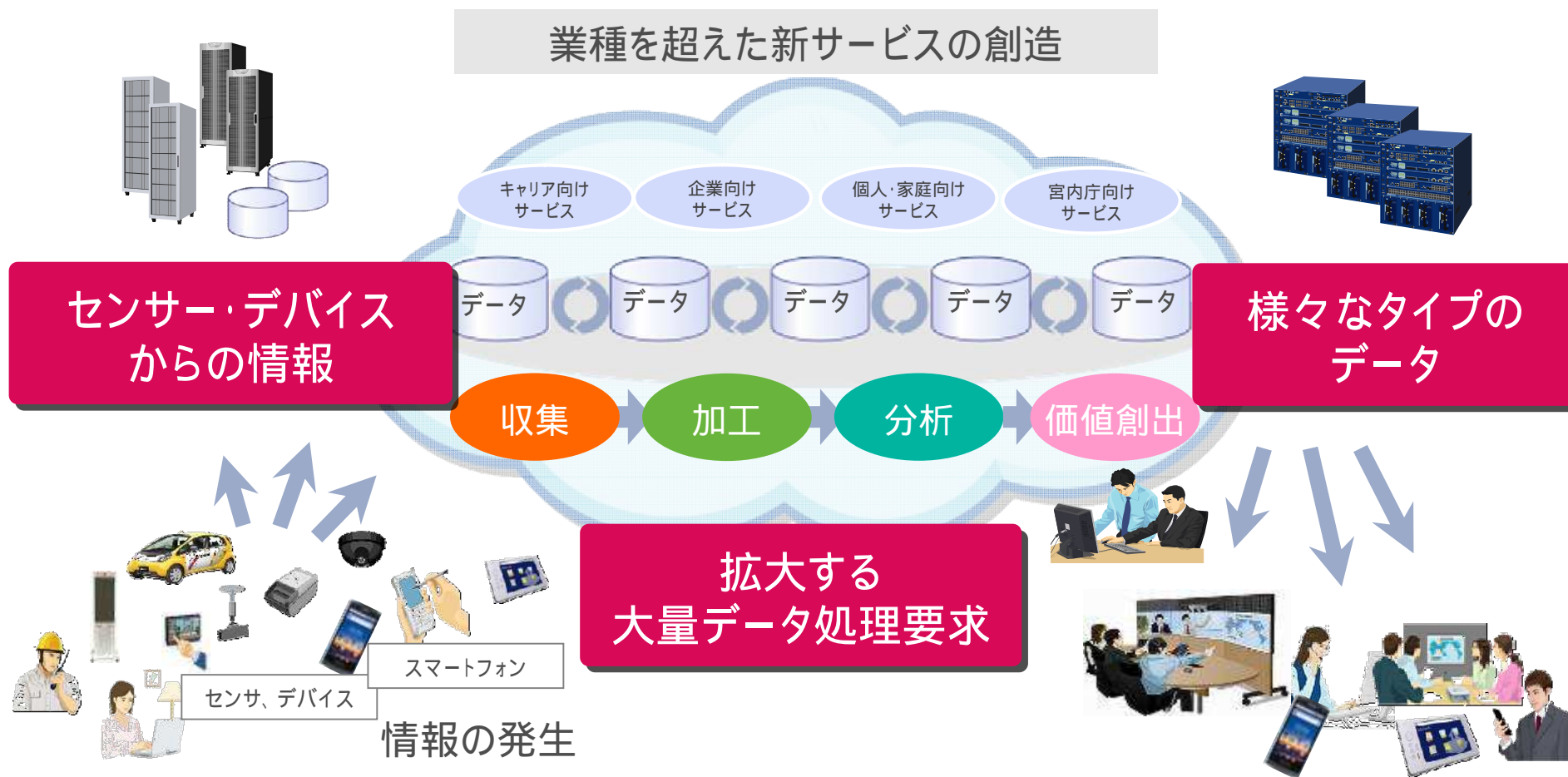
ビッグデータ技術の活用

ビッグデータ技術の活用には、4つの視点あり



ビッグデータ活用における課題

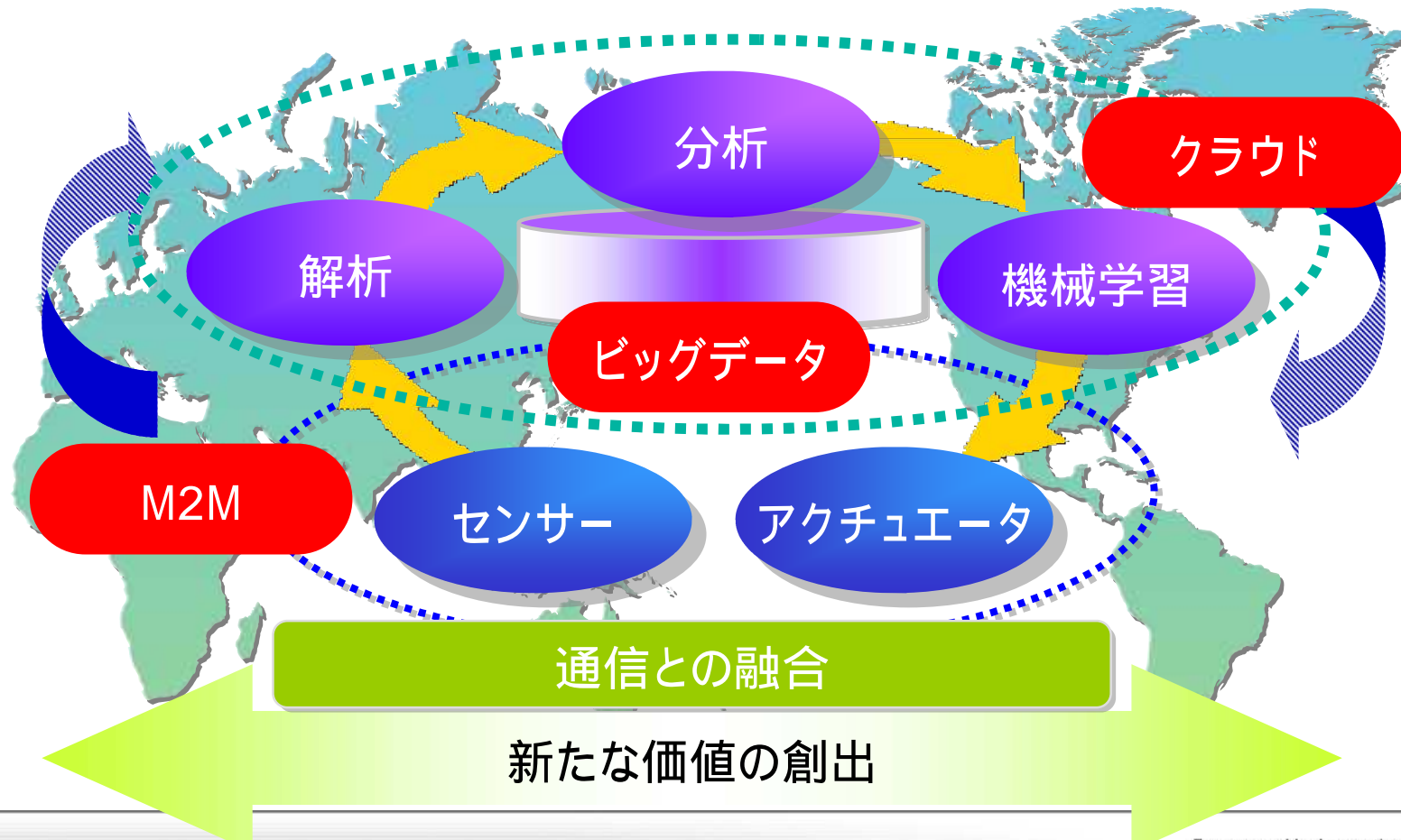
- センサーを含め、あらゆる情報が電子化され、データ量が爆発的に増加
- 様々なタイプの膨大なデータを加工、分析する必要性が飛躍的に増大



新たなICT社会を実現に向けて

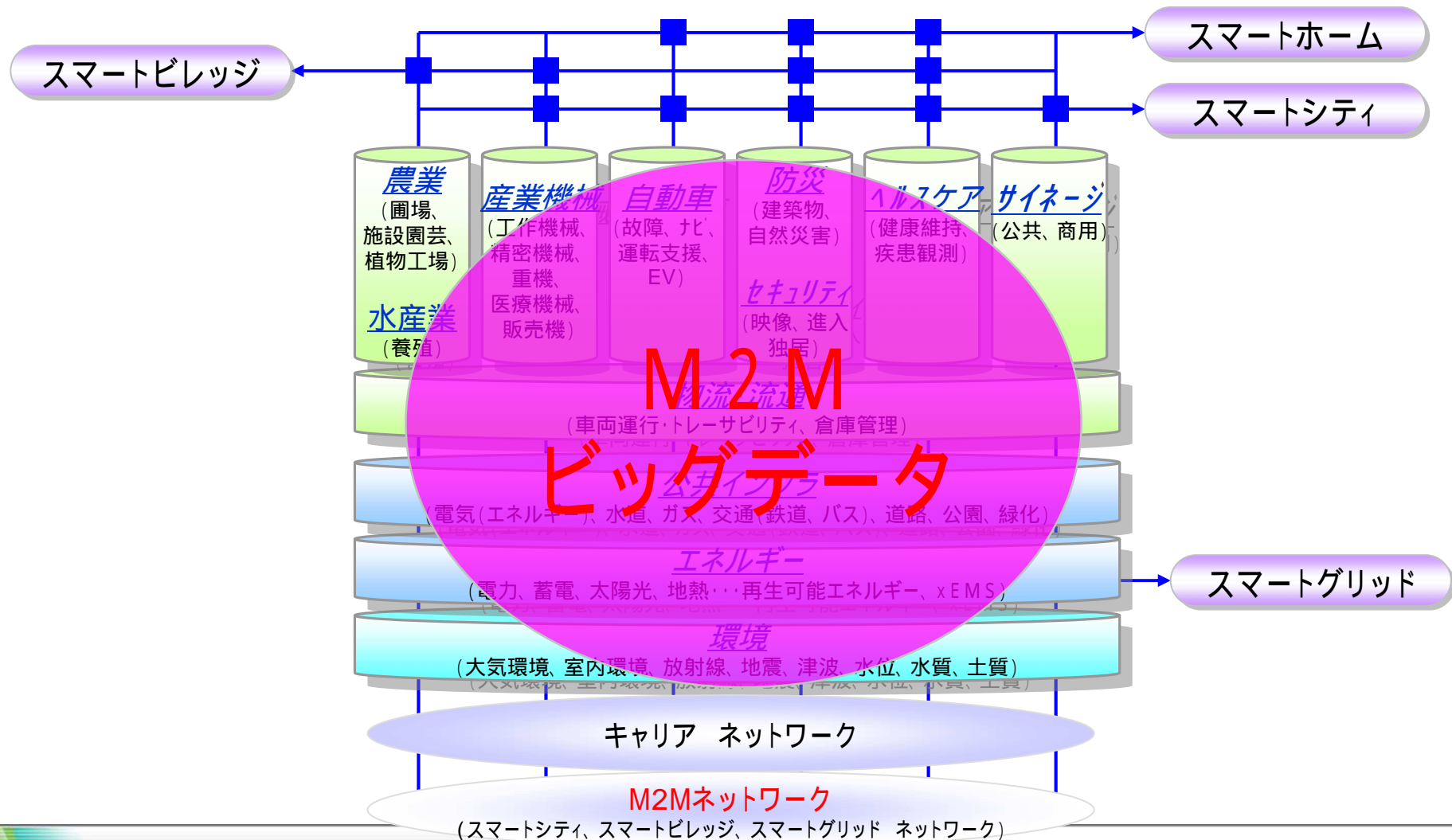
M2M、ビッグデータとクラウドによる、新たなICT社会を実現する

- M2M: 時間と位置情報等を付加したリアルな情報収集と設定・制御
- ビッグデータ: 様々なデータを解析・分析・機械学習し、新たなビジネスを創造
- クラウド: スピードのある対応、いつでも、どこからでも対応



様々な業種・業界が産業の枠を超えて連携

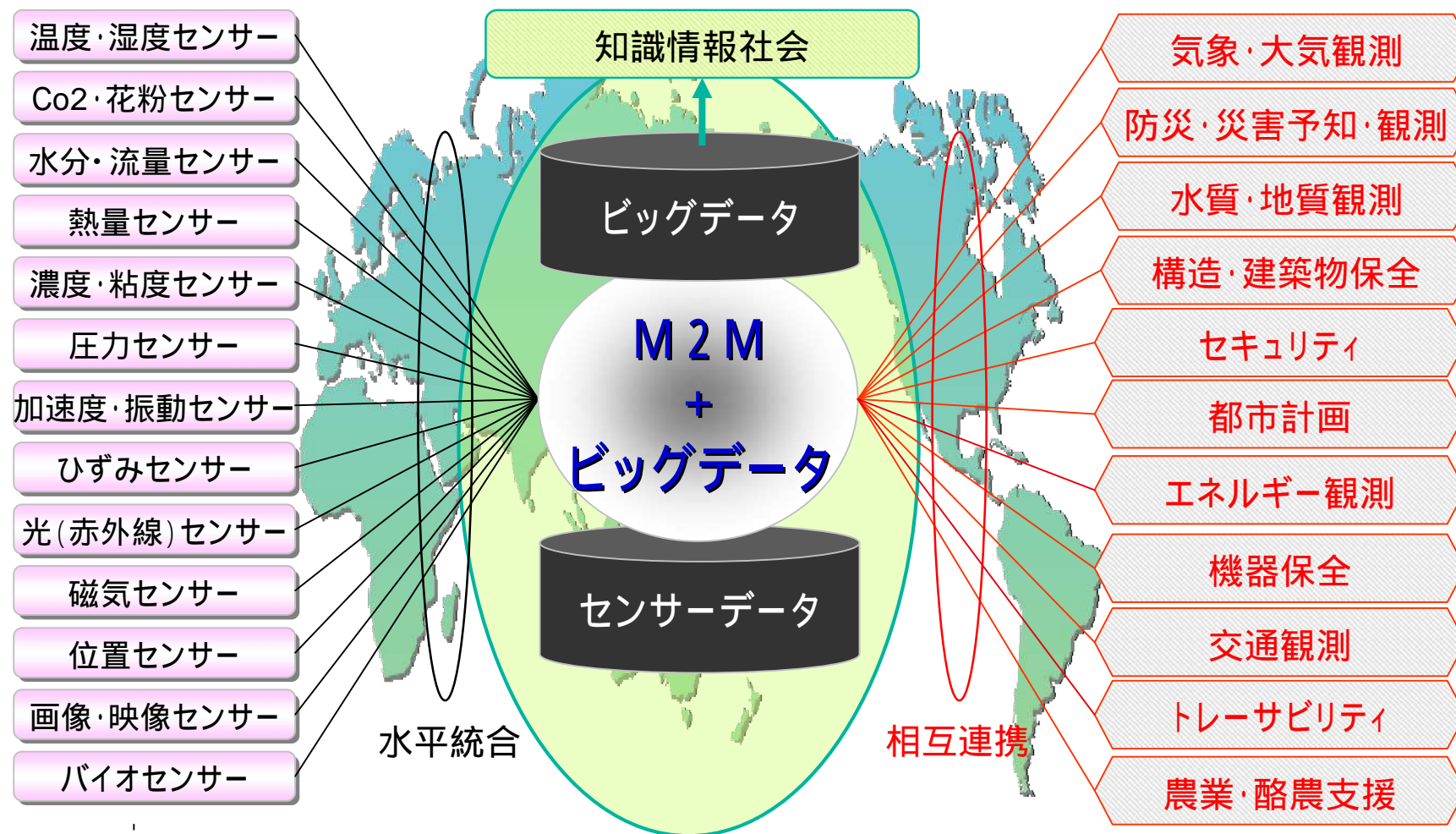
様々な業種・業界が産業の枠を超え、社会インフラの高度化が連携することで、
新たなICT社会を創造



様々な『モノ』が繋がる世界

新世代M2Mコンソーシアム資料より編集

M2Mのセンサーネットワークと、情報の分析・解析を行うビッグデータを組み合わせること、新たな“知識情報社会”を実現



NECの目指すM2Mの世界

社会の知恵・ノウハウが集積される巨大な「知恵袋」
Network of Things: いつでもどこでもつながる世界



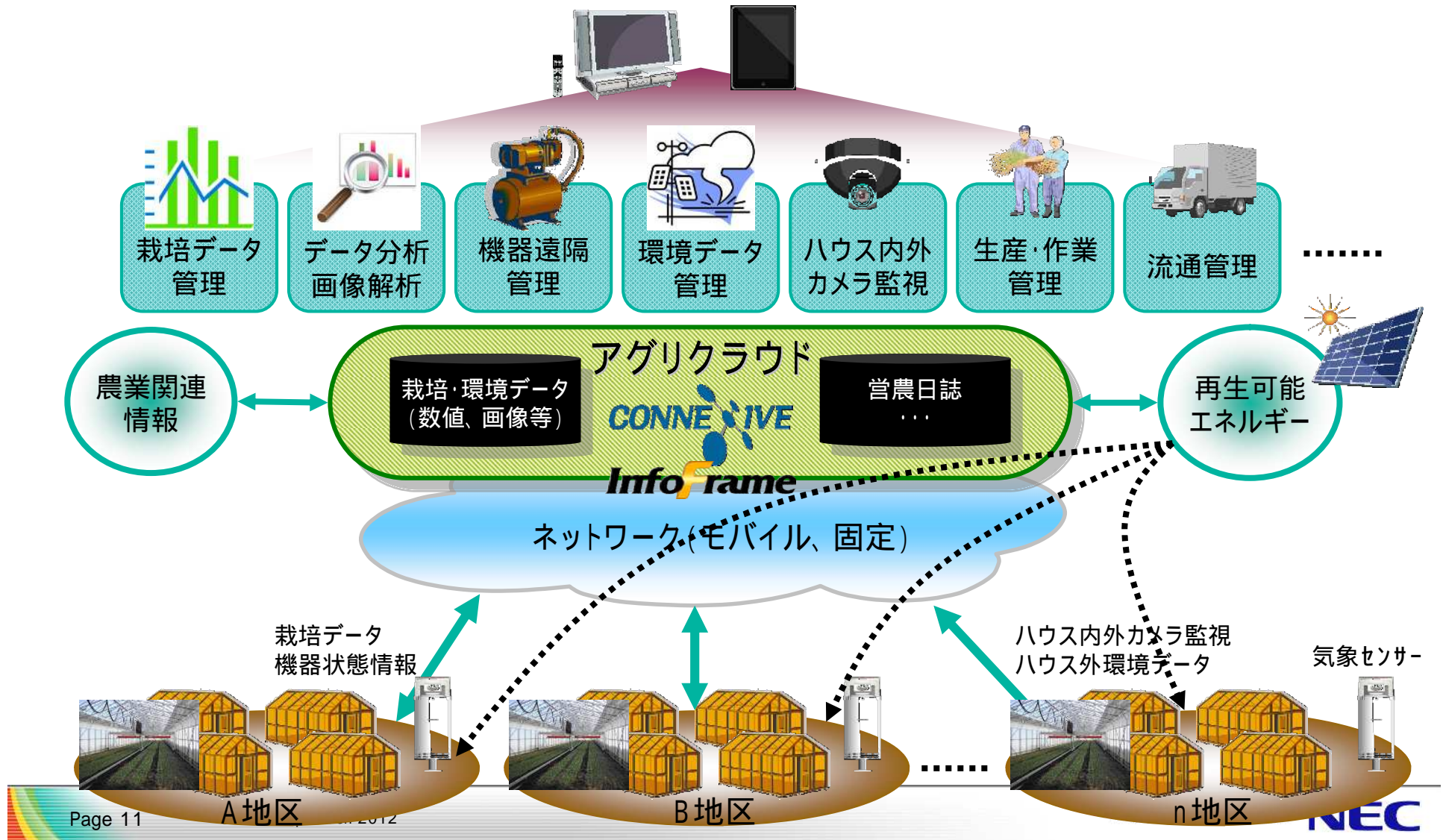
様々なサービスを実現

M2Mプラットフォーム + ビッグデータを基盤に情報インフラを構築し、様々な領域のサービスと新たなICT社会を実現していく



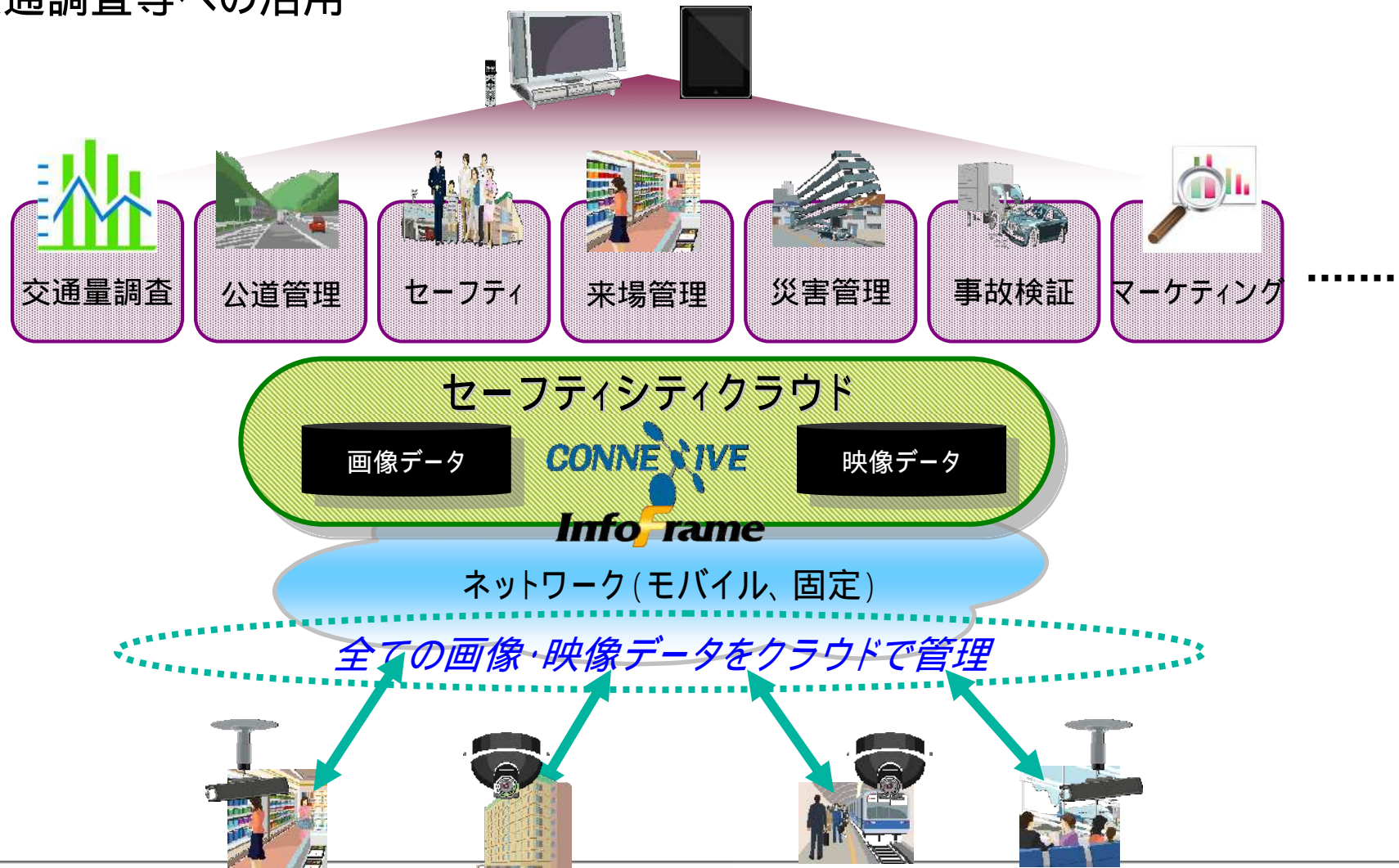
農業領域へのM2M・ビッグデータの適用

M2Mとビッグデータを活用し、農業の栽培～生産～流通～消費までを一元管理することで新たな農業のスタイルを創造



公共領域(安心・安全な街づくり)でのM2M・ビッグデータの活用

様々な画像・映像データを一括管理することで、パブリックセーフティ、マーケティングと交通調査等への活用



エネルギー領域でのM2M・ビッグデータの活用

スマートメーター + 通信を活用したスマートエネルギーにより、エネルギーを効率よく、かつ有効に活用できる仕組みを提供していく



Empowered by Innovation

NEC